

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



俺の妹がこんなに  
不埒なわけがない!

ガッツリ、オナニーもした。  
明日の準備もした。  
よし、健全な男子高生だ!!

自分の完璧な日常に陶酔しながら布団に入り、まどろんでいると、  
突然、体に重しがかかり頬にピンタを食らう。

おわっ!?なんだ?!  
このデジャブ感ほっ!!

驚き眼で顔を見上げると、  
そこには見慣れた妹の顔・・・桐乃の顔があった。



「な、なにやってるんだ？」  
「・・・決まってるじゃない、人生相談があるから来たの。」  
「あのな、・・・いや、まあいいや、  
んで、今回は何の用だ？」  
「エッチしたいの・・・」  
「・・・どう聞かえなかつたんだが・・・」  
「ちゃんと聞いて下さいよ！エッチしたいから  
協力して下さいって言ったの！！」  
「えっ——」

カ  
ー  
ッ

!?

「これも立派な趣味の範疇だ！  
私、気が付いたのと、いくら好きでエロゲーやっても、  
経験のない私には主人様の気持ちも  
全然理解できてないって事だ！」

「まてまて、冷静にやれ！  
今、お前とんでもないこと言ってるぞ！」  
「私はいつだって、冷静よ。  
あんたこそ、何でも協力するって言ったのに約束破る気？」  
「え、それは、お前の趣味に対してだ!!」

ギ  
テ  
ギ  
テ  
ギ  
テ  
ギ  
テ

「だからさ、協力して下さいよ？」



「いやいやいや、ホントマズいって!?!」

「そんなこと言ったって、ココはこんなガチガチじゃない。(棒読み)」

「お、お前、エロゲーのセリフまんま言ってるだろ・・・」

「・・・い、いいのよ!あんた余計な事ばかり言うから未だ童貞なのよっ!」

「ど、童貞ちゃうわっ!」

「へー、地味子に土下座でもしてやらせて貰ったの?」

「う、うるせえ、俺はこう見えてもモデルんだよっ!」

「フーン、ムキになってちょっとキモイんですけど・・・」

しかも、チ○ポから何か滲んで来てるし。」

「いやいやいや、てか、チ○コ握りながら会話してるんじゃない!」  
「アンタ馬鹿じゃないの?ここ立たせないとフェラできないじゃない。」  
「ちょ、ちょっと待て これ以上はマジヤバイ...」

にぎ

にぎ

「やっばアンタのチ○ポ汚いから無理。手で我慢しなさい。」  
「うわあ、ちょ、ストップストップ!」



「う、うるほいわね。ひゃんとひょうりよくしろ!」  
「ちょ、桐乃裏筋なめるなあああ」  
「ちょ、チンチンショッパすぎ!」  
しかも、ゴミついてるし。ぎったなあ〜」





「なんか手でするの疲れちゃったし  
足でなんかどう?  
でか、アタのチ○ポ触るのも汚らわしいし」  
「く、ぐぐぐ...」  
「あれれ〜? 妹の足コキが気持ち良すぎて  
言葉も出ない?  
おえいっちゃうの?  
妹の足でイッちゃうの?」  
「くう、おまえ段々乗ってきやがったな...  
くっ、くうう 駄目だ イクううう!!」

ビクン  
ビクン  
ジュクハニミ!

ムフ〜

ムフ

あひ  
あひ

たーら〜

くた〜

「ちょっと、キモー!  
何、妹の足に精子かけてんのよっ! この変態兄貴っ!!」  
ほら謝ってよ。可愛い妹の足コキが気持ちすぎて  
御足に汚い精子かけてスミマセンっ。」  
「ちょ、ちょっと、お前悪ノリしすぎだっ...」  
「悪ノリ? チ○ポへにやらせて何言ってるのよ?  
マジありえないし。」





「つか、自分だけ気持ちよくなって罪悪感とかないわけ？」

「・・・お、俺にどうしろと？」

「なめてよ。」

「えっ？」

「私のアソコなめてって言うてるの！」

「ちょっ!! 分かった分かったから押さえつけるなって!

いつの間にか、普通にヤッちゃってるけど本当にいいのか・・・」

「うるさいわね。細かい事ばかり言うてるんじゃないわよ!!」

「・・・」

「ほら、ざつと舐める！」

「・・・ぞ、それじゃいくぞ・・・」

ほあ

ほあ

「ちょ、初めほもっと優しく舐めてっ!!」

「うるせえ! お前が舐めろって言ったんだから好きに舐めまくってやるよっ!!」

「ひゃあ、ひい!! やっ、ちょっ! も、もっとゆっくり・・・」

「これか! クリが一番いいんだな!!」

「あああああああああああああああっ」

「ほふう ほふう、よし、クリを重点的に攻めてやる!!」

ちろ

ちろ

ぺろ

れろ

ちゅるるる

「いやあああああああああああああああ  
吸わないでええええええええええ!!」

「らめええええええ!! そこばかり攻めないでっ!!」

「すげえよ・・・桐乃のココ、

すげえ膨張してる! プリプリだよ。」

「いぎいいいいいい、!!」



「ほあほあ・・・ほら、次は本番よ。」

「えっ、そこまでやるのか!?!」

「あたりまえじゃない!これを乗り越えた先に私の充実したエロゲライフが待ってるのよ!

ほら、行くわよ!

「ちょ、そんないきなり!?!」

「ん、ん、つっ・・・」

「だ、大丈夫か?」

「大丈夫に決まってるでしょ・・・」

あ、あんたの祖チンなんか・・・」

「いや・・・涙でてるぞ・・・?」

「うるさい!泣いてなんかないんだからっ!」



ん...

ふう

ふう



ぬちゅ

ぬちゅ

「ほ、ほら、奥までズッポリ入っちゃった。全然楽勝なんだから...」  
「本当に大丈夫か?」  
「大丈夫ったら大丈夫っ!ほら、あんたも腰振って!」  
「そ、それじゃ、い、行くぞ」  
「ん、ん...、さうさう初めはゆっくり...」



「ん、あ、ほあ、チ○ポがグリグリ、きもちいい。すごいエッチな音が、クチャクチャしてるよう」

ぬちゅ

じゅちゅ

「あ、あひい、ちよっ、ちよっと、ん、やっ、少し早いからもっとゆっくり、うん、あ、やっ」  
「わりい、やべえ腰が止まんわえええええ!」  
「あっ、ちよっ、やあああああああああ」



「んんん、やあ、ほっ  
すごい、すごい!!

なんかエロゲの主人公の気持ち分かる気分!

「かほっヤバイっ!! き、桐乃...  
もうイっちゃうかもしれない。」

「もっと、もっと、突いて突いて突いて~」

「ああああ、ヤバイヤバイヤバイ  
イクぞっ!イクぞっおおおお!!!」

「ああ、ヒャン、すごい、私ん中でチ○ポが  
グリグリ~~~~!!」

ほあ

ほあ

ど  
び  
ゃ  
っ

「んあああああああああああああああああああああっ!!!」

「あふう、あ、やん、ああ... 凄い、精子がドクドクでてるうう」

「ほふう、あ、あ全然射精が止まんわええー」

「あああ... あん... ほあほあ... 凄い...」

... 兄貴の精子、お腹にかかっている...」

なんか、このあったかさ、凄く落ち着く...かも。」

「ぜえほあ ぜえ... け、結局、桐乃とヤっちゃった...」

兄貴... 失格...」

「何言っでんの。私から、頼んだ事だから別にいいのよ。」

それよりも...」

「ちょっ桐乃!?!」



「何、驚いてるのよ。もう一回やるのよ。もう一回」

「えっ!?いや、もう二発も出したんですけど・・・」

(オナニー入ると三回・・・)」

「そんなの知らないわよ!

エロゲじゃ連続7発出してたんだから、あんたも頑張りなさい!」

「7発!?無理無理無理!絶対無理だろ!!」

「うるさい、言い訳すんな!早くこの情けないモン使えるようにしなさい!

アタタ自分が満足したからお休みなんて絶対許さないんだからっ!」

「うん、勤弁してくれ~~~~~!!」

結局、この日は徹夜でセ発抜かされ  
その後も、やれ小説の題材だの、やれ  
保険体質の手習だのと、事あるごとに  
~人生相談~ という名目で関係を迫られたのだった。

お、俺の味方こんな不平を訴えないっ!

おわり

～あとがき～

この度は、～俺の妹がこんなに可愛いわけがない～  
の同人CG集～俺の妹がこんなに不埒なわけがない～  
をお手にとって頂きありがとうございますー！

事の発端は6話の、地味子回で一人部屋で拗ねていた  
桐乃に胸キュンしてしまい、これは京介×桐乃で  
何か作らないとマズイというか、自分自身が悶々として  
眠れなくなると思い衝動的に製作しちゃいました。

もう、とりあえず桐乃がたくさん描けて満足満足。  
ホント自己満足しまくったので同人活動を  
楽しんだ感があります

あと、鉛筆主線にしてアニメ塗りをしかったというのもあり  
今までの同人の中で一番没頭できた感じがします。

あーもう桐乃可愛いよ桐乃・・・  
(文章支離滅裂でゴメンナサイ)

さてさて次回作についてですが現在、時間を見つけて  
色々描いているので、次こそ吉里吉里を使って簡単な  
ゲームを作りたいと思っていますが、若しかしたら  
またCG集かもしれませんが、その時でも  
生暖かい目で見守ってやってください・・・

それじゃおやすみなさい～